第４学年２組　総合的な学習の時間学習指導案

単元名：見つけ隊！調べ隊！守り隊！わたしたちにできる防災
～わたしたちは，地域とどうかかわり，どう生きるのか～

本単元で育成を目指す資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】

指導者　呉市立三坂地小学校　住吉　綾

日　時　　令和３年６月２４日（木）
場　所　　呉市立三坂地小学校　第４学年２組教室
学　年　　第４学年２組（男子 16 名　女子 13 名　計 29 名）

単元について

○単元観

本単元は，本質的な問い「わたしたちは，地域とどうかかわり，どう生きるのか」を基に構想し，地域の防災の取組について知り，災害時の身近な課題について調べ，自分や家族の命を守るために「自分にできること」という視点から自らの課題を設定し解決していくことを通して，本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】を育成することをねらいとしている。

本校区は，平成 30 年７月６日に起きた西日本豪雨災害により被災した。中でも黒瀬川に流れ込んだ大量の土砂による被害を，本校児童も身近に体験しており，当時の様子について記憶している。その後も，毎年のように大雨警報が発令され，昨年度は保護者等の児童引き渡しも経験している。このような児童の身近な体験を基にした学習課題を設定することで，児童は，地域の方々から自分たちにできる命を守るための備えを学び，行動に繋げるという目的意識をもって探究することができると考える。

本単元では，地域の自然や安全を守る人々に触れ，自分たちにできることを企画・実践させることで，地域の一員として，地域とのかかわりや生き方について，児童一人一人が考えをもつことができるよう展開する。その中で，児童は，身近な存在である地域の方々と双方向のやりとりを通して，普段は見えにくい地域を支えている大人や上級生の存在に触れ，大人だけでなく，子供たちも地域を支えることができることに気付き，自分たちが企画した活動を実行しようとする思いをもつことができると期待している。このような学びの姿は，指導者が設定した本質的な問いを具現化するものであり，本中学校区で設定した資質・能力の育成につながると考える。

○児童観

本学級の児童は，これまでの学習を通して，課題解決に向け，進んで資料や情報を集めたり，友達と話し合いながら，自分の考えを考えたり広げたりできるようになっている。しかし，事前アンケートの結果を見ると，「授業の中で，課題について，『なぜだろう』『やってみたい』と思う。」「学習後，『もっと調べたい』『もっと考えてみたい』と考えている。」の項目で肯定的回答が 70%を下回っており，児童が自ら問いを見出すことや，新たな問いを見出すことに課題があると分かった。そのため，児童の視点に立って，主体的な学びを更に促していく手立てが必要であると考える。

防災に関しては，被災時，児童を含め，各家庭の防災意識は一時高まった。被災後も，毎年，「呉市学校防災週間」の取組をはじめ，これまでも各教科等で防災について学んできたものの，災害への備えについての意識には個人差がある。平成 30 年豪雨災害での教訓を風化させないためにも，より自分事として考えていくことが必要だと考える。

本単元に関わる事前アンケート

①	災害に備え，家でどんな備えをしているか知っている。	48%
②	授業の中で，課題について，「なぜだろう」「やってみたい」と思う。	69%
③	授業の中で，課題解決するために，進んで資料や情報を集めている。	72%
④	授業の中で，友達と話し合いながら，自分の考えを考えたり広げたりしている。	72%
⑤	学習後，「もっと調べたい」「もっと考えてみたい」と考えている。	69%

○指導観

指導に当たっては，次の２点に留意する。

【探究的な見方・考え方を働かせるための各教科等との関連】

探究的な活動を支える土台として，探究的な見方・考え方を働かせることをより重視し，各教科等を効果的に関連させ，単元を構成する。

まず，社会科単元「広大新開と大林源蔵」において，大林源蔵による呉市広町の埋め立ては小浜新開から始まったことなどについて学習する。当時の小浜新開には，現在，小浜農園があり，そこで，児童は第３学年の総合的な学習の時間単元「野菜について調べて育て，２年生に伝えよう」において大根づくりを行っている。大林源蔵の功績について学習し，源蔵たちの埋め立てによって現在の広町のほとんどが成り立っていることに気付かせるとともに，そこを流れる黒瀬川の様子を調べる中で，歴史や防災の視点で問いをもたせる。

また，学習のまとめとして，国語科単元「みんなで新聞をつくろう」において学習した文章構成や，理由や事例の挙げ方を生かして，自分たちが調べたことを地域に発信する場を設定する。どのような表現や文章構成であれば，自分たちが伝えたいことを伝えることができるのか試行錯誤させ，発表原稿を作成させていく。

このように，各教科等との関連を児童にも意識させ，自分たちの課題解決のために，各教科等での学びが活用できることを実感させたい。

【児童が自ら問いを見いだすためのしかけ】

単元を通して，本質的な問い「わたしたちは，地域とどうかかわり，どう生きるのか」を意識させ,「自分と地域とのかかわり」や「自分の生き方」に係って，児童が自ら問いを見出すことや，新たな問いを見出すことができるよう，しかけを入れて単元構成を工夫する。

単元前に，遠足で黒瀬川などの自然を観察・スケッチする活動を取り入れる。単元の導入では，昨年度，児童が大根づくりをした小浜農園と黒瀬川とを関連付ける資料を提示し，自分たちにとって身近な黒瀬川について知らないことがたくさんあることに気付かせ，黒瀬川の歴史や変化について問いをもたせる。

第２次では，平成 30 年豪雨災害のときの黒瀬川について調べる。黒瀬川の支流が氾濫し，三坂地小学校校庭に土砂が流れ込んだり，黒瀬川に架かる木製の橋が流れされたりした被害の様子を想起させる。その上で，児童があまり知らない当時の災害対応の様子や復旧のための活動に焦点を当て，防災の視点で黒瀬川について問いをもたせる。

第３次では，防災は大人が中心となって取り組むものだと思っている意識を変えるため，本校第５学年が取り組むコスモス栽培が行われている土手は，黒瀬川の氾濫を防ぐために築かれた河岸であることを知らせる。地域防災は，大人だけでなく，自分たち子供もできることがあることに気付かせ，自分たちがそれぞれ企画し，実行する活動を考えさせる。

単元を通して，身近な黒瀬川を調べる活動や，防災の視点で地域を調べる活動が,「自分は地域とどうかかわるか」といった一人一人の課題意識をもつことにつながると考える。また，地域の一員として，自分たちにできる地域防災のための取組を実行させ，達成感を味わわせることで，自分たちの力が地域を創っていくことを感じ，今後，地域の課題解決に向け，更に主体的に地域と関わっていく姿を期待している。

単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

黒瀬川をはじめ，地域の自然や安全を守るために取り組んでいる人々と関わったり，防災のための取組を行ったりすることを通して，黒瀬川を守るために取り組んでいる人の存在を知り，黒瀬川の歴史や防災の視点から「自分の命は自分で守る」ためにできる防災・減災について考え，実践に生かすことができる。

【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
①　黒瀬川は広の町にとって必要な存在であり，それらを守るために取り組んでいる人がいることを理解している。 ②　インタビューや調べ学習によって，目的や対象に応じた調査活動を実施している。 ③　黒瀬川と自分たちとのつながりを理解することは，探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①　広の町がどのようにしてつくられてきたのか，広の町を守るために何が必要かなど，課題を明らかにしている。 ②　黒瀬川に関する課題を解決するために必要な情報について，多様な方法で収集している。 ③　課題の解決に収集した情報を整理することができる。 ④　相手や目的に応じて，ＩＣＴ機器を活用し，分かりやすく表現している。	①　課題解決のための方法を考えようとしている。 ②　地域とのかかわりの中で，異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分ができる減災を考えようとしている。

指導と評価の計画

（全 35 時間）本時は６／35

【単元を貫く課題】わたしたちの「広」を守るために、自分たちは何ができるだろうか。

〈本質的な問い〉わたしたちは，地域とどうかかわり，どう生きるのか

次（時）	学習内容 【他教科等との関連】	評価 評価規準（評価方法）	評価 資質・能力
一（5）	**課題の設定** ○　広の昔と今を比べ，変わったもの，変わらないものを見付ける。（１時間）	・広の町がどのようにしてつくられてきたのかに着目し，課題意識をもっている。 （ワークシート，発言）	思考力・判断力・表現力①
	情報収集 ○　黒瀬川について情報を集める。（１時間）	・広の歴史（黒瀬川）について，多様な方法で情報を収集している。（ワークシート，発言）	思考力・判断力・表現力②
	整理分析 ○　広の特徴を調べるために，集めた情報をどのように整理・分析するとよいかを考える。（１時間） 【総合的な学習の時間３年】 野菜について調べて育て，2年生に伝えよう 【社会科４年】県の広がり 【社会科４年】広大新開と大林源蔵	・課題解決のための方法を考えようとしている。 （ワークシート，発言）	主体性①
	○　情報を収集するとともに，集めた情報を整理し，分析する。（２時間）	・調べ学習によって，目的に応じた調査活動をしている。 （行動観察，ワークシート，発言）	知識・技能②
二（15）	**新たな課題の設定** ○　黒瀬川の特徴についてまとめ，新たな課題を設定する。（１時間）	・課題を設定し，学習の計画を立てている。（ワークシート，発言）	思考力・判断力・表現力①
	情報収集 ○　黒瀬川は自分たちにとってどのような存在なのか考える。（１時間）【本時】	・収集した情報を基に地域の住民にとって黒瀬川はどのような存在なのかを考えている。 （行動観察，ワークシート，発言）	思考力・判断力・表現力③
	○　豪雨災害によって，黒瀬川にどのような被害があったか調査する。（５時間） 【理科４年】水のゆくえ	・黒瀬川に関する課題を解決するために必要な情報について，多様な方法で収集している。 （行動観察，ワークシート，発言）	思考力・判断力・表現力②
	○　復興に向けてどのような取組が進められてきた調査する。（５時間）	・黒瀬川は広にとって必要な存在であり，それらを守るために取り組んでいる人がいることを理解している。（ワークシート，発言）	知識・技能①

【単元を貫く課題】わたしたちの「広」を守るために、自分たちは何ができるだろうか。

	整理・分析 ○　事実と意見を整理して分析するための方法を考える。（１時間） ○　事実と意見を整理し，黒瀬川は自分たちにとってどのような存在かを考え，交流する。（２時間）	・課題解決のための方法を考えようとしている。 （ワークシート，発言） ・課題の解決に必要な情報を収集し，整理している。 （ワークシート，発言） ・相手や目的に応じて，ＩＣＴ機器を活用し，分かりやすく表現している。（ワークシート，発言）	主体性① 思考力・判断力・表現力③ 思考力・判断力・表現力④
三（15）	新たな課題の設定 整理・分析 ○　地域を守るために，自分たちはどのような活動ができるか考え，企画する。（７時間） 【国語科４年】 グループにまとめて整理しよう ○　考えたアイデアが実現可能かどうか検討する。（３時間） まとめ・表現・振り返り ○　「一人一人が大切にすべきこと」をまとめ，全校児童や地域に向けて発信する。（５時間） 【国語科４年】 みんなで新聞をつくろう 【国語科４年】 調べたことをほうこくしよう	・地域との関わりの中で，異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分ができる減災を考えようとしている。 （ワークシート，発言） ・黒瀬川は広にとって必要な存在であり，それらを守るために取り組んでいる人がいることを理解している。 （ワークシート，発言） ・課題の解決に必要な情報を収集し，整理することができる。 （ワークシート，発言） ・相手や目的に応じて，ＩＣＴ機器を活用し，分かりやすく表現することができる。 （行動観察，ワークシート，発言） ・黒瀬川と自分たちとのつながりを理解することは，探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 （行動観察，ワークシート，発言） ・相手や目的に応じて，ＩＣＴ機器を活用し，分かりやすく表現することができる。 （行動観察，作品，発言）	主体性② 知識・技能① 思考力・判断力・表現力③ 思考力・判断力・表現力④ 知識・技能③ 思考力・判断力・表現力④

本時の展開

本時の学習

（１）本時の目標

黒瀬川は自分達にとってどのような存在なのか，考えることができる。

（２）本時の評価規準

課題の解決に収集した情報を，整理することができる。【思考力・判断力・表現力③】

（３）学習の展開（第７時／全 35 時間）

分	学習活動	指導上の留意点	資質・能力の評価（評価方法）
4	1　校歌や「三坂地っ子の歌」（児童会の歌）の歌詞に，「黒瀬川」が共に使われていることを振り返る。	・　校歌と「三坂地っ子の歌」（児童会の歌）の歌詞を提示し，黒瀬川に着目させる。ロイロノートで振り返りを共有し，「三坂地小」のイメージを確認する。	
1	2　本時の学習課題を知る。		
	校歌や三坂地っ子の歌，インタビューから，黒瀬川は自分達にとってどのような存在なのかを考えよう。		
20	3　黒瀬川について，卒業の思いを知り，「黒瀬川とは」の問いに対して，班で話し合い，黒瀬川の存在について，自分たちの考えをホワイトボードに整理する。	・　予め卒業生にインタビュー（①）した動画を視聴し，自分たちと卒業生の三坂地小学校への思いを比較し，ベン図に整理させる。 ・　地域の住民や卒業生が，「黒瀬川」をこれから先，地域や心に残したいものであるということを理解させる。	
15	4　現在の黒瀬川の様子から，西日本豪雨災害がもたらした被害に触れ，「災害」は自然災害による被害だけではなく，人の命に関わる被害も災害であることを知る。	・　現在の黒瀬川の護岸工事の写真を提示し，この工事は，自分達の生活と黒瀬川を守るために行われていることに気付かせる。 ・　卒業生のインタビュー（②）を聞き，災害の備えに触れ，「減災」という言葉を知る。	課題の解決に収集した情報を，整理し，黒瀬川が自分たちにとって，どのような存在かを考えている。【思考力・判断力・表現力③】（行動観察，ワークシート，発言）
5	5　本時を振り返るとともに，今後の学習の見通しをもつ。	・　西日本豪雨災害による被害を知り，また，自分たちにできる減災について考えていくという見通しをもたせる。	

振り返り例

- 黒瀬川の護岸工事は，川と人々の生活を守るために行われていることがわかった。
- 三坂地小へのイメージは，自分たちと卒業生で，同じだったり違ったりした。
- 災害はいつ起きるかわからないから，自分たちにできる備えを考えていきたい。

育成を目指す資質・能力に係る成果と課題

〈　成果　〉

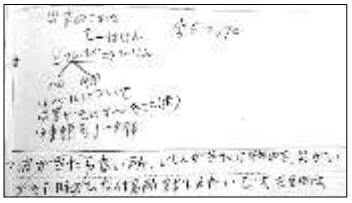
①課題の設定

今年度の遠足場所を黒瀬川上流にし，未だ行われている護岸工事を見て，西日本豪雨災害よる被災を想起させた。この活動から，課題解決の方法を考えようとする,主体性を身に付けることができた。

②情報収集・整理分析

校歌や児童会の歌の歌詞に「黒瀬川」が入っていることに児童が気付いた。その気付きを深めるため，西日本豪雨災害後，児童会の歌を作成した当時の６年生の「黒瀬川に対する思い」や「災害による被害から思ったこと」などを語り合う様子のビデオを視聴した。

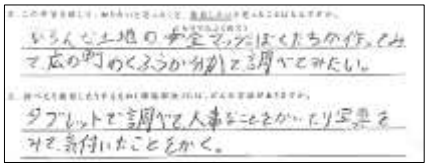
このことから,「黒瀬川は地域にとって大切な存在」だということ，また，黒瀬川によって繰り返される被害も絶えないことを知り,「自分たちにできること」を考えることが,黒瀬川を守り自分たちの命を守ることに繋がることに気付くことができた。また，それらを基に，各家庭へ被災体験のアンケートを取ったりインタビューしたりして,情報を収集し,タブレットを用いて整理した。

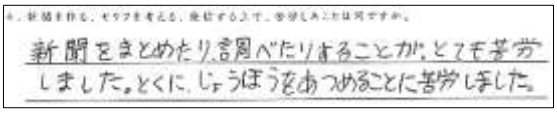


児童のワークシートには，三坂地地区はどの災害も危険であること，また，災害の種類によって避難場所が違うことなどの記述に加え,「他学年にも知らせたい」という記述があった。これらの記述から，広の町を守るために何が必要かなど,課題を明らかにしながら考えている姿が見られ，思考力・判断力・表現力を身に付けることができたと考える。

③まとめ・表現・ふりかえり

情報収集し,調べたいことを自分たちで見付け整理し表現する最終段階は,学習発表会であった。発表会の中で「知らせたいこと」「学んだことから感じたこと」などを，どんなセリフで伝えるか,担当のグループに分かれて考え，自分たちの言葉でまとめることができた。発表会を通して,「自分の命は自分で守る」ためには,「過去を知ること」の大切に気付き,「減災」につなげる活動をより多くの人に伝えることができた。ワークシートには,「まだ知らないことがあるからもっと調べたい」「多くの情報の中から何を伝えたらいいのかを考えるのが難しかった」「タブレットを使うことで情報を整理しやすかった」などと書かれていた。これらの記述から，課題の解決に収集した情報を整理することや，相手や目的に応じてＩＣＴ機器を活用して分かりやすく表現する姿が見られ，思考力・判断力・表現力を育成できたと考える。





〈　課題　〉

本質的な問い「わたしたちは，地域とどうかかわり，どう生きるのか」は，高学年や中学校にも，つなげていくことのできる問いである。それぞれの学年の単元構想がある中で，どのように継続していくかが課題である。